

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1992000016		
法人名	社会福祉法人にんじんの会		
事業所名	にんじんホーム・上野原		
所在地	山梨県上野原市上野原522番地		
自己評価作成日	令和 3 年 10 月 21 日	評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	令和 3 年 12 月 10 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様がその人らしく暮らして頂けるよう、職員一同心がけている。また、入居者様の人格を尊重し、有する能力を最大限に活かし、維持して頂ける様に支援している。
 入居者様やご家族様から伺った生活歴等を基に個別援助を計画実行することで、より楽しみを持った生活を送りながら最期の時まで過ごして頂けるよう支援しています。
 コロナ感染症で現在は見合わせていますが、認知症カフェ(毎月第3日曜日)、出張はるcafé、夏祭り(8月)を開催しています。また、地域のサロンや行事(夏祭り・神輿など)への参加しています。
 地域ボランティア、学生(大学・高校・中学の介護等体験や職場実習)との交流を行っています。
 当事業所はグループホームの他に訪問看護・通所介護・小規模多機能型居宅介護などの事業を併設しており、他事業とも連携を密に取れるのが強みです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○MCSを導入し、意思表示の困難な利用者の思いを職員チーム内で確認、共有し適切な支援に繋げている。また、緊急時には関係機関(行政、包括、医療)と状況共有を行う中で、素早い対応がなされている。
 ○日々の生活が単調にならないように業者による配食を止めて季節を感じられる食の提供や事業所内での手作りおやつ等の提供を実践している。
 ○利用者の重度化にともない意向の聞き取りの難しい利用者には職員間のミーティングの実施や家族の協力も得ながら意向の把握に努めている。
 ○職員の意見や要望を聞き取る体制が、内容により検討されるステージが整っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20) (※窓越しの面会など距離をとった交流)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている(参考項目:49)(※感染対策を行い、可能な場所に出かけているか)(※戸外とは事業所の庭に出る等も含みます)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームにんじん・上野原**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ピーチ)	ユニット名(柚子)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人及び事業所の理念、目標をフロアに掲げ、管理者・職員共々その理念を共有、実践している。	法人及び事業所の理念、目標をフロアに掲げ、管理者・職員共々その理念を共有、実践している。	法人の理念5項目は額に入れて事務所やサービス提供場所に掲示している。毎日のミーティングの中で共有し実践されている。法人の理事長もミーティングに参加し理念の共有に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナ感染症により今現在実施は出来ていない。認知症カフェを通して、地域の方々と交流を図っている。また地域自治会(加入)夏祭りへの招待を受け参加していた。中学・高校生徒が吹奏楽部コンサートやイベントにボランティアとして参加するなど、交流があった。	新型コロナ感染症により今現在実施は出来ていない。認知症カフェを通して、地域の方々と交流を図っている。また地域自治会(加入)夏祭りへの招待を受け参加していた。中学・高校生徒が吹奏楽部コンサートやイベントにボランティアとして参加するなど、交流があった。	新型コロナ感染症により実施できていないとのことだが、感染が終息した際は、それまでの活動の継続に向けて準備を整えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナ感染症により今現在実施は出来ていない。認知症カフェの開催(毎月)。上野原市の広報紙やTwitter、チラシの配布を利用して告知。また地域で開催しているサロン、長寿会へ参加し、介護保険制度の説明や認知症予防体操を行っていた。	新型コロナ感染症により今現在実施は出来ていない。認知症カフェの開催(毎月)。上野原市の広報紙やTwitter、チラシの配布を利用して告知。また地域で開催しているサロン、長寿会へ参加し、介護保険制度の説明や認知症予防体操を行っていた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナ感染症により今現在は実績報告のみ。2ヶ月毎(年6回)運営推進会議を開催し、日々の活動や運営状況、事故クレームの有無などの報告の実施。入居者様、ご家族様、区会長・民生委員など地域の方々、包括等行政の方に参加して頂き、意見交換しながらサービスの向上に取り組んでいる。	新型コロナ感染症により今現在は実績報告のみ。2ヶ月毎(年6回)運営推進会議を開催し、日々の活動や運営状況、事故クレームの有無などの報告の実施。入居者様、ご家族様、区会長・民生委員など地域の方々、包括等行政の方に参加して頂き、意見交換しながらサービスの向上に取り組んでいる。	新型コロナ感染症により実績報告のみとの報告。感染症が終息した際は、通常の活動に備えている。実績報告ではコロナ禍中でもできる活動として、利用者の活動状況をZOOMやSNSのツールを利用して家族に知らせるなど、タイムラグのない情報提供をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	上野原市が運営する地域ケア会議や認知症ネットワークへ参加し、地域と協力関係を構築している。市から入居相談を受ける等、協力関係を構築している。	上野原市が運営する地域ケア会議や認知症ネットワークへ参加し、地域と協力関係を構築している。市から入居相談を受ける等、協力関係を構築している。	上野原市が運営する地域ケア会議や認知症ネットワークへ参加している。市からの入居相談には関係機関との連携の中で対応している。定員等の関係で、にんじんグループホームへの入居が難しい場合は他の機関へ繋いでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束をしないケアの実践」については職員も十分理解し、積極的に取り組んでいる。危険が伴うことが予測される行動については観測して対応を考えている。必要に応じてご家族や医療関係者と検討して安定して生活が送れるよう支援する。	「身体拘束をしないケアの実践」については職員も十分理解し、積極的に取り組んでいる。危険が伴うことが予測される行動については観測して対応を考えている。必要に応じてご家族や医療関係者と検討して安定して生活が送れるよう支援する。	「身体拘束をしないケアの実践」を職員が十分な理解と相互の共有のもとで実践している。どうしても拘束の必要な場面が生じた場合は、予め家族と交わした同意書のもとで、拘束の3原則に則り実施されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人が作成したマニュアルの活用、上野原市高齢者虐待対応支援マニュアルをもとに、虐待の防止に取り組んでいる。	法人が作成したマニュアルの活用、上野原市高齢者虐待対応支援マニュアルをもとに、虐待の防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての理解は向上してきている。まだ不足している部分も多いので、勉強会を実施し理解を深め、共有を図る。	権利擁護についての理解は向上してきている。まだ不足している部分も多いので、勉強会を実施し理解を深め、共有を図る。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については管理者や計画作成担当者が、十分に説明を行い、疑問点があればその場で説明し、理解、納得を得ている。	契約については管理者や計画作成担当者が、十分に説明を行い、疑問点があればその場で説明し、理解、納得を得ている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームにんじん・上野原**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ピーチ)	ユニット名(柚子)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	MCSを活用し、入所者様の活動報告(写真)や意見交換を行っている。MCSの環境が整わない家族には電話やキャラットだよりで情報のやり取りご家族の要望をうかがうなど、個別対応しながら利用者様の意見を反映させ、QOL向上に繋げている。	MCSを活用し、入所者様の活動報告(写真)や意見交換を行っている。MCSの環境が整わない家族には電話やキャラットだよりで情報のやり取りご家族の要望をうかがうなど、個別対応しながら利用者様の意見を反映させ、QOL向上に繋げている。	MCSの活用は、その時の利用者の要望や嗜好、体の状態を、特に言葉による表現の困難な利用者に対して職員間で共有することができ、より適切な対応を瞬時に行うことができる有効なツールである。ただMCSの環境が整わない家族には、別の方法を取り入れ個別対応をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月事業所内ミーティングの開催、日常の面接や賞与月の面接を行い職員の意見を聞く機会を設けている。その中で、事業所に対応できる課題は管理者会議で共有し、法人全体の課題として取り上げる課題は、リーダー会議や事業所長会議に上げるなどして反映している。	毎月事業所内ミーティングの開催、日常の面接や賞与月の面接を行い職員の意見を聞く機会を設けている。その中で、事業所に対応できる課題は管理者会議で共有し、法人全体の課題として取り上げる課題は、リーダー会議や事業所長会議に上げるなどして反映している。	事業所ミーティングや日常のミーティング、更には管理者会議において決裁の必要な案件は法人全体の課題としてリーダー会議や事業所長会議に上げて職員の意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境・条件については法人規定に法って対応している。年に数回は管理者と面談する機会があり、その中で各職員からの意見を聞き、安定して就労できる様努めている。	職場環境・条件については法人規定に法って対応している。年に数回は管理者と面談する機会があり、その中で各職員からの意見を聞き、安定して就労できる様努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には知識・技能が習得できるように計画的な教育を実施している。法人内で定期的な研修会や勉強会の開催を行っている。	新人職員には知識・技能が習得できるように計画的な教育を実施している。法人内で定期的な研修会や勉強会の開催を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議や作業部会などの会議や勉強会に積極的に参加し、同業者との交流やサービスの質の向上に努めている。	地域ケア会議や作業部会などの会議や勉強会に積極的に参加し、同業者との交流やサービスの質の向上に努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の契約の段階でご本人だけでなく、ご家族様、状況によっては病院や市役所など関係者から要望を聞き、安心して暮らせる環境作りに努めている。管理者・計画作成担当者・ユニットリーダー・居室担当者が協力しながら積極的にコミュニケーションを図っている。	入居前の契約の段階でご本人だけでなく、ご家族様、状況によっては病院や市役所など関係者から要望を聞き、安心して暮らせる環境作りに努めている。管理者・計画作成担当者・ユニットリーダー・居室担当者が協力しながら積極的にコミュニケーションを図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に関する受付や申し込みの段階でご家族様より困っている事や要望を聞き取りながら関係づくりに努めている。居室担当者を紹介し安心していただけるよう努めている。	入居に関する受付や申し込みの段階でご家族様より困っている事や要望を聞き取りながら関係づくりに努めている。居室担当者を紹介し安心していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	受付や申し込みの段階で、要望されている支援の優先順位を話し合うなどしている。他のサービスを含めてトータルな対応に努めている。	受付や申し込みの段階で、要望されている支援の優先順位を話し合うなどしている。他のサービスを含めてトータルな対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の出来る事はしていただく等、有する能力の維持向上に努めている。居室担当者を中心にその人らしく生活できるようにせあを実践し関係を築いている。	入居者の出来る事はしていただく等、有する能力の維持向上に努めている。居室担当者を中心にその人らしく生活できるようにせあを実践し関係を築いている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームにんじん・上野原**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ピーチ)	ユニット名(柚子)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	イベントや日常の様子、本人状況を定期的に連絡している。 日常を伝えケア方法を一緒に検討する場を設けて いる。	イベントや日常の様子、本人状況を定期的に連絡してい る。日常を伝えケア方法を一緒に検討する場を設けて いる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	デイサービスや小規模多機能と併設しているため、地 域の知り合いの方と交流する機会がある。	デイサービスや小規模多機能と併設しているため、地 域の知り合いの方と交流する機会がある。	利用者の入居前より、地域との関係性についての聞き 取りを行い、入居後の関係性の継続を図っている。入居 前に利用していた散髪屋に通っている利用者がいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	入居者様の性格や行動パターン等を把握し、入居者 様同士の関係にも目を配っている。また複数の入居者 様と共に一緒に作業する等、入居者様がお互いに関 われる環境整備に努めている。	入居者様の性格や行動パターン等を把握し、入居者 様同士の関係にも目を配っている。また複数の入居者 様と共に一緒に作業する等、入居者様がお互いに関 われる環境整備に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去される等して契約が終了した元入居者様に対 しても、必要に応じてフォローしている。	退去される等して契約が終了した元入居者様に対 しても、必要に応じてフォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	日常のケアの中で積極的にコミュニケーションを取り 入、入居者様の意向を把握するよう努めている。ご本 人の意向を聞き取ることが難しいときは、ご家族と聖 話し合いを行い、入居者本意のケアが提供できるよ うにしている。	日常のケアの中で積極的にコミュニケーションを取り 入、入居者様の意向を把握するよう努めている。ご本 人の意向を聞き取ることが難しいときは、ご家族と聖 話し合いを行い、入居者本意のケアが提供できるよ うにしている。	利用者とのコミュニケーションを通して意向の把握に 尽力している。意思表示の困難な利用者にはMCSの活用 により、意向の確認、体調不良時の状況把握が職員間 で共有されている。また、家族との話し合いを経てケア に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	入居者様の生活歴や趣味、嗜好などの把握に努め、 コミュニケーションの中でその方の意思を尊重したケア を実施している。居室には馴染みの家具や写真、アル バムなどを置いていただいている。	入居者様の生活歴や趣味、嗜好などの把握に努め、 コミュニケーションの中でその方の意思を尊重したケア を実施している。居室には馴染みの家具や写真、アル バムなどを置いていただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	個人各自が自由に過ごす時間を設けているほか、他 利用者様と共に体操なども実施し、心身状態や有する 能力の把握に努めている。	個人各自が自由に過ごす時間を設けているほか、他 利用者様と共に体操なども実施し、心身状態や有する 能力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	毎月GHミーティングを開催し、入居者様の現状につ いて情報共有を図ると共に、必要に応じて本人様やご家 族様とも話し合っている。その結果現状に即した介護 計画を作成している。	毎月GHミーティングを開催し、入居者様の現状につ いて情報共有を図ると共に、必要に応じて本人様やご家 族様とも話し合っている。その結果現状に即した介護 計画を作成している。	入居前より利用者アセスメントを丁寧的に行い介護 プランに反映させている。毎月のGHミーティングから 利用者の状況を共有し、半年ごとに介護計画プランの 継続や変更について関係者間で検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録表を作成し日々の様子を記録、観察し、申し 送りや会議を活用し職員間で情報共有を図りながら計 画の見直しを行っている。	ケア記録表を作成し日々の様子を記録、観察し、申し 送りや会議を活用し職員間で情報共有を図りながら計 画の見直しを行っている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームにんじん・上野原**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ピーチ)	ユニット名(柚子)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新型コロナウイルス感染症により今現在実施は出来ていない。 GH入居者様を併設している他事業所(通所介護事業所や小規模多機能型居宅介護事業所)の利用者と交流ができた、体操やゲームをするなど入居者様本位のケアを心がけている。	新型コロナウイルス感染症により今現在実施は出来ていない。 GH入居者様を併設している他事業所(通所介護事業所や小規模多機能型居宅介護事業所)の利用者と交流ができた、体操やゲームをするなど入居者様本位のケアを心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染症により今現在実施は出来ていない。 夏まつりや発表会など、可能な限り地域の行事にも積極的に参加していただき、有する能力を維持できるよう支援している。	新型コロナウイルス感染症により今現在実施は出来ていない。 夏まつりや発表会など、可能な限り地域の行事にも積極的に参加していただき、有する能力を維持できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様が受診するときには介護サマリーを作成するなど、かかりつけ医とも連携をとりながら適切な医療が受けられるよう支援している。	入居者様が受診するときには介護サマリーを作成するなど、かかりつけ医とも連携をとりながら適切な医療が受けられるよう支援している。	家庭の延長との考えのもとで、かかりつけ主治医との継続を重視している。しかし、家族の負担もあり多くの利用者は主治医が変わっている。内科、外科、歯科等利用者の身体状況に応じて適切な医療が提供できるよう医療関係者との連携を密にしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝看護師を交えたミーティングを実施、入居者様の体調管理に努めると共に、利用者様に特変が生じた場合は看護師と共にケアに当たっている。	毎朝看護師を交えたミーティングを実施、入居者様の体調管理に努めると共に、利用者様に特変が生じた場合は看護師と共にケアに当たっている。		
32		○入院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時のみならず、途中でもお見舞いに行くなどしながら、病院関係者とも情報交換を行っている。協力病院とも、他事業所で関係があるため常日頃より関係作りを行っている。	入院時のみならず、途中でもお見舞いに行くなどしながら、病院関係者とも情報交換を行っている。協力病院とも、他事業所で関係があるため常日頃より関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取り介護の説明を行っている。利用者様の状態により医療(看護師や担当医)と連携をとりご家族へ説明を行い、ご本人やご家族の意向に沿った終末期の対応を行っている。	入所時に看取り介護の説明を行っている。利用者様の状態により医療(看護師や担当医)と連携をとりご家族へ説明を行い、ご本人やご家族の意向に沿った終末期の対応を行っている。	入居時に重度化された場合や終末期が近づいた際の説明が行われている。また、次第に老い、重度化した際には看護師、担当医との連携のもとで再度本人や家族の意向に沿った終末期対応を行う。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを整備し、年間スケジュールを組んで勉強会を実施している。また経験の浅い職員もあり、全職員を対象にした訓練・勉強会を継続して実施したい。	急変時の対応マニュアルを整備し、年間スケジュールを組んで勉強会を実施している。また経験の浅い職員もあり、全職員を対象にした訓練・勉強会を継続して実施したい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災や地震等を想定した避難訓練を実施している。また、上野原市と災害協定を結び、被災時の高齢者(障害・幼児なども)の受け入れ体制を整えたと共に、入所高齢者が施設から避難する場合、地域の協力が得られるよう駐車場に集まるなど情報周知を行っている。	定期的に火災や地震等を想定した避難訓練を実施している。また、上野原市と災害協定を結び、被災時の高齢者(障害・幼児なども)の受け入れ体制を整えたと共に、入所高齢者が施設から避難する場合、地域の協力が得られるよう駐車場に集まるなど情報周知を行っている。	定期的に災害(特に地震)を想定した訓練を実施している。利用者の生活基盤が2階であるため、避難の方法には特に注意を払っている。近くに消防署があるので、応援を待つ体制を整えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に利用者様の声に耳を傾け、丁寧な声かけや言葉遣いをするよう心掛けている。身体ケアでは必要に応じて同性解除での対応も実施している。写真の掲載等利用については個別に同意書頂くことで了承を得ている。	常に利用者様の声に耳を傾け、丁寧な声かけや言葉遣いをするよう心掛けている。身体ケアでは必要に応じて同性解除での対応も実施している。写真の掲載等利用については個別に同意書頂くことで了承を得ている。	一人ひとりのプライバシーに配慮したケアを心掛け実践されている。身体ケアでは必要に応じて同性介助が行われている。異性による介助については、職員のシフト等の課題により難しい状況であるが、利用者の意向を尊重し支援している。	異性による介助は、シフト等の課題で必ずしも同性介助の場は作れないようであるが、同性介助が基本としての考えのもとで、介助の体制について今後検討されることを期待する。

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームにんじん・上野原**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ピーチ)	ユニット名(柚子)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の様子に目を配り、要望を傾聴するようにしている。意思表示が困難な利用者様は表情からの思いをくみ取るようにしている。	入居者様の様子に目を配り、要望を傾聴するようにしている。意思表示が困難な利用者様は表情からの思いをくみ取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールはおおかた決まっているが、基本的には入居者様のペースを尊重している。	一日のスケジュールはおおかた決まっているが、基本的には入居者様のペースを尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあった洋服を切られるよう支援すると共に、季節の変わり目にはその時期に合った洋服等を用意していただけるように家族にも話している。	季節にあった洋服を切られるよう支援すると共に、季節の変わり目にはその時期に合った洋服等を用意していただけるように家族にも話している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月1回はイベント食があり、おやつ作りを行っている。食事で季節を感じていただけるように支援している。また準備や片付け等もできる限り一緒に行っている。	毎月1回はイベント食があり、おやつ作りを行っている。食事で季節を感じていただけるように支援している。また準備や片付け等もできる限り一緒に行っている。	業者委託となっているが、メニューは和洋が取り入れられておりバラエティに富んでいる。また、献立には作り方や留意点が明示されている。また、業者委託を止めて、誕生会メニューを取り入れたり、手作りおやつを提供も行われている。調理時の音、匂い、色彩を大切に支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量については毎日記録をとっている。水分については毎食事のみならず、10時・15時にお茶を提供している。習慣や好みに応じた支援を実施している。	食事・水分量については毎日記録をとっている。水分については毎食事のみならず、10時・15時にお茶を提供している。習慣や好みに応じた支援を実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本的に毎食後口腔ケアを行っている。自分で出来る方には声かけや見守りをしていただいている。介助が必要な方には、その方に応じた介助を行っている。	基本的に毎食後口腔ケアを行っている。自分で出来る方には声かけや見守りをしていただいている。介助が必要な方には、その方に応じた介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各人のADLに合わせてオムツや紙パンツを使い分けている。またアセスメントを行い、排泄時間や排泄パターンを把握してトイレ誘導を行い自立できるよう支援している。	各人のADLに合わせてオムツや紙パンツを使い分けている。またアセスメントを行い、排泄時間や排泄パターンを把握してトイレ誘導を行い自立できるよう支援している。	利用者のADLに合わせた布や紙おむつ紙パンツの使い分けをしている。利用者一人ひとりの排泄動向のアセスメントを行い、課題を職員間で共有し様々な方法で取り組み評価し、自立への支援を行う。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者様に合った運動を取り入れたり、こまめな水分摂取を促し便秘の予防に努めている。便秘が起こった際は、看護師とも協力し下剤を服用していただいている。また排便の有無も毎日チェックしている。	入居者様に合った運動を取り入れたり、こまめな水分摂取を促し便秘の予防に努めている。便秘が起こった際は、看護師とも協力し下剤を服用していただいている。また排便の有無も毎日チェックしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は設定しているが、極力入居者様の意向を尊重し入浴していただいている。入浴介助に関しては、出来る限りご自身でしていただけるよう心掛けています。	入浴時間は設定しているが、極力入居者様の意向を尊重し入浴していただいている。入浴介助に関しては、出来る限りご自身でしていただけるよう心掛けています。	入浴時間は午前と午後に分け、それぞれ3人から4人が入浴している。基本一人の利用者に対して一人の職員が対応しており、ゆっくりとコミュニケーションをとりながらの入浴場面になっている。介助についてはできる限り自力でできるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事などの決まった時間以外は入居者様のペースで過ごしていただいている。人によっては昼寝をしたり、マイペースに寛いでいただいている。夜間眠りの浅い方に対しては、その様子をご家族に話し、看護師とも相談の上入眠導入剤を使用することもある。	食事などの決まった時間以外は入居者様のペースで過ごしていただいている。人によっては昼寝をしたり、マイペースに寛いでいただいている。夜間眠りの浅い方に対しては、その様子をご家族に話し、看護師とも相談の上入眠導入剤を使用することもある。		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームにんじん・上野原**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ピーチ)	ユニット名(柚子)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の服薬については特に注意を払い、管理・服用していただいている。一人一人の服用についてもしっかりと飲み込めたことを確認するように努めている。また状況の変化があった際は看護師とも連携をとるようにしている。	入居者様の服薬については特に注意を払い、管理・服用していただいている。一人一人の服用についてもしっかりと飲み込めたことを確認するように努めている。また状況の変化があった際は看護師とも連携をとるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の趣味や嗜好の把握に努め、数人でゲームを楽しんだり、出来る方には洗濯物を干すなどの軽作業を行っていただいている。食事の準備や片付けもスタッフと一緒にやっていただいている。	入居者様の趣味や嗜好の把握に努め、数人でゲームを楽しんだり、出来る方には洗濯物を干すなどの軽作業を行っていただいている。食事の準備や片付けもスタッフと一緒にやっていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス予防のため、外出レクは行っていないが、近所の散歩や病院受診等の外出の機会を設けている。	新型コロナウイルス予防のため、外出レクは行っていないが、近所の散歩や病院受診等の外出の機会を設けている。	新型コロナウイルス感染予防により外出やレクリエーションは行われていない。しかし、感染が終息した際は近所の散歩やイベント、季節の外出の機会を計画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設ではお金はお預かりしていない。入居者様によってはご自身のお金で買い物をする事の支援を行っている。	基本的には施設ではお金はお預かりしていない。入居者様によってはご自身のお金で買い物をする事の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的にはご家族とのやりとりは職員が行っている。要望のある入居者様には、電話など家族とのやりとりが出来るよう支援している。	基本的にはご家族とのやりとりは職員が行っている。要望のある入居者様には、電話など家族とのやりとりが出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには温度計や湿度計を設置し、環境に配慮している。	共有スペースには温度計や湿度計を設置し、環境に配慮している。	共有スペースにはソファが置かれたり、季節感のある飾りがある。不快感を取り除くよう、温度計や湿度計を設置して住環境に配慮している。共有スペース(廊下等)を利用者ができる範囲で清掃するなど生活場面での役割を担っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにはテレビやソファを配置。思い思いに過ごせるように配慮している。	共有スペースにはテレビやソファを配置。思い思いに過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の居室には以前自宅で使用されていた家財道具等を可能な限り置いて頂く等、ご本人が心地よく過ごせるよう努めている。	入居者様の居室には以前自宅で使用されていた家財道具等を可能な限り置いて頂く等、ご本人が心地よく過ごせるよう努めている。	利用者の居室には入居前より親しんでいた家財をできる限り運び入れ、安心した暮らしに繋げている。また、家族写真や一人ひとりの思い出となる品々も配置している。近年は、他施設から持ち込まれた家財や入居時に新調した家財を持ち込むケースも増えてきている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの位置等がわかるよう表示をしている。また居室や廊下など、全面バリアフリーとなっており、安全に充分配慮した建物となっている。	トイレの位置等がわかるよう表示をしている。また居室や廊下など、全面バリアフリーとなっており、安全に充分配慮した建物となっている。		